

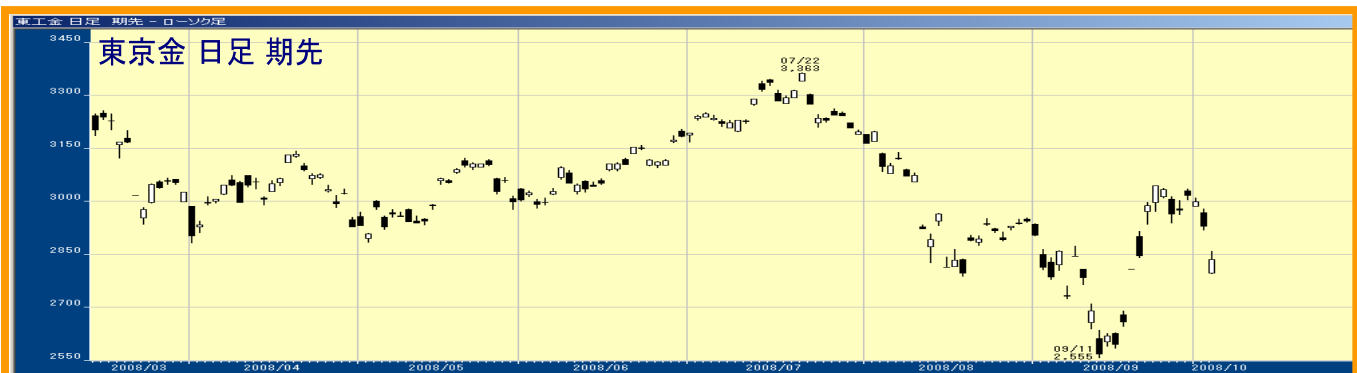
□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

- [注目スケジュール]
 10/3 米雇用統計、ISM非製造業景況指数
 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告
 7 豪政策金利発表
 8 米MBA住宅ローン申請指数
 9 英政策金利発表
 米新規失業保険申請件数
 10 米貿易収支
 CFTC建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



まず白金であるが、金融商品的側面をもつ金に比べて弱い。白金はエネルギーや穀物と同様のテクニカルポイントで対応したい。具体的には9/18安値3600円所を回復できない限り単純パターン分析上買い材料は無し。そして9/24の戻り高値4200円所を合わせて考えるとその差約600円。これを3600円から倍返し計算で単純波動分析上のポイントは3000円というきりの良い数値が弾き出されそのまま現在の目標値となる。

一方金であるが、こちらは3つのラインを意識したい。①2936円(9/26)現在ここをネックラインとして小さいWトップを形成済み。②2786円(8/19)現在の直近サポートライン。③2555円(9/11)直近安値、②をブレイクダウンした場合の下値目標数値。

の3つである。現状一番注目すべきは②の2786円であるが、一番古い日付であるにも関わらず、平行線を引いた場合に3つの日足安値がこの近辺である。よってサポートすれば2936円ラインまでの戻りが期待でき、下抜けた場合は2555円を目指す展開が予測される。現値(2855円付近)を考慮してリスク・リワード(目標値までの上値・下値余地)を考えた場合売り有利と判定する事ができる。金買い白金売り、単銘柄であれば双方売り方針と考える(10/3 13:45現在)。

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

米金融安定化法案の下院可決が実現するかどうか、これが金融市場の最大のテーマとなっており、結果次第でまた大きく値が振れる展開を覚悟しておく必要がある。今回提案されている7,000億ドル相当の資金投入による効果がどこまで持続するか、その評価も割れているため、仮に法案成立により一時的に株式相場が浮上することはあっても、これで本格底入れとの判断には傾きそうにない。市場は今や金融セクター以外にも目を向けており、週明け以降の米企業決算への関心が高まるのは必至であろう。こうした流れを前提にすれば、当面は白金は戻り売り基調から逃れるのは難しいと考えられる。工業需要と宝飾需要が2大柱の白金は、いずれにしても景況感に強く左右される構図であり、よくてU字型の回復に留まるものと見るべき。いまだ底見えずといった感じで、下落スピードが鈍ることはあっても、急騰への期待は小さい。

一方の金に関しては、信用不安を背景に銀行間でドル不足が生じ、結果としてのドル高が続いていることから、為替面で買いが鈍る点(NY市場)が気掛かり材料。加えて、原油相場の大幅調整でインフレヘッジの意味合いも薄れている。ラストリゾート(安全資産)との綱引きであり、方向感のはっきりしない。先行き不透明感が強い中で、ヘッジとしての一定の買い需要は見込まれるものの、相場をきっちりと押し上げることが出来るとは限らない。こちらも調整含みで眺めておいたほうが無難と判断しておきたい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。 許可RE0043(許可取得日2008年10月3日)